

井 下 清 (いのした きよし)

内 山 正 雄

(東京農業大学客員教授)

先生は明治17年（1884）8月1日、京都府聖護院村に生まれる。

同38年7月、東京高等農学校（現東京農業大学）を卒業、東京市に奉職した。大正9年、当時の東京市役助池田宏に、風景墓地の必要性を説き、直ちにこれが認められて事業費100万円を以て着手を命



ぜられた。今日の多磨霊園である。大正12年11月、公園課長を命ぜられ、同14年、欧米各国に出張した。この間、関東大震災後の公園・街路樹の新設・復旧に努めた。昭和7年、内務省の東京緑地計画協議会委員、同13年内務省専門委員となる。昭和18年、東京都技師、高等官二等、正五位に叙せられた。同21年3月、依願免官となる。

行政官として、東京の公園、墓園、街路樹、文化財保護等の基礎を築かれた他、都市計画・都市公園・屋外広告物・首都綠化・国土綠化・動物園・文化財・観光等、多くの審議会、委員会、協会の委員、理事、理事長として活躍された。

なお、東京高等造園学校の創設、日本造園学会の設立にも参画し、造園学会会長在職は6年にわかった。都庁

退職後は、東京農業大学教授、同大学常務理事、事務局長を歴任、名誉農学博士の学位を授与されている。

多くの業績の中でも、特記すべきは多磨霊園、八柱霊園等の墓園、端江葬儀所、青山斎場、雑司谷崇祖堂等の都市葬務施設の完成であり、この種の計画において全国都市の先鞭をつけられ、また、公園・霊園の特別経済の確立、街路樹の改良整備、斬新的な公園設計等において永く他都市の模範となっているところである。

先生はその謹厳柔軟な態度と博識をもって、政・財・官・学・宗教の各界から現場職人の親方に至るまで、知己友人極めて多く、それぞれ信頼を得られ、東京市（都）への寄附庭園や寄附公園地が多いのも先生の人柄によるものと思われる。

先生を犒う会や慰労の会の発起人の一人である前田多門は、「井上さんと話をすると、柔軟な顔に確信を秘めておられるのに、引け気味を感じるほどであり、最も俗の俗たる市にいて、その理想を実現せられたことはまさに偉大なことである」とかたった。昭和48年8月8日逝去。享年89才。